

哲学対話がひらく可能性

◇ 教育・医療・福祉 ◇

「哲学対話教育」実践と応用のための公開シンポジウム

3月17日(日)・18日(月) 10時から

場所 富山大学五福キャンパス・黒田講堂

入場無料・通訳有

www.las.u-toyama.ac.jp/event/pd2019



Photo by Daniil Kuzelev on Unsplash

哲学対話とは？

「哲学対話」は「会話」や「討論」とは異なり、「命って何?」「学ぶことの意義は?」など、すぐには答えの出ない、しかし誰もが語りうることにについて、共に考えを深めていく営みです。問い、語り、聞き、考え、問い直し、新しい視点で物事を捉える力を養うことができます。学校教育の他、医療・福祉施設や一般企業など、様々な場所で行われています。海外には、哲学対話のファシリテーターを育成するコースのある大学もあります。

講演とワークショップ

「哲学対話」に、研究者／実践者として長年携わってこられた、国内外の先生方をお招きし、講演とワークショップをして頂きます。使用言語は日本語及び英語ですが、随時通訳がありますので、安心してご参加ください。ワークショップでの「対話」は、見学のみも可能です。

お問合せ

詳細をご希望の方、懇親会へのご参加をご検討の方は、下記アドレスまでご連絡ください。

pd2019@las.u-toyama.ac.jp

(シンポジウム実行委員長・教養教育院 佐藤真基子)



中岡成文

一般社団法人哲学相談おんころ代表理事。元大阪大学教授。1990年代後半からは鷲田清一氏らとともに臨床哲学を始動。教育現場の他、医療、看護、介護、その他社会の様々な場において哲学対話を実践。著書に『試練と成熟—自己変容の哲学』『ハーバース・コミュニケーション行為』『私と出会うための西田幾多郎』他。



DENIS PIERET

公共の場に哲学を広める活動を行う特定非営利活動法人PhiloCitéオーガナイザー。リエージュ大学(ベルギー)講師。専門とする政治哲学に関する著作(*Les frontières de la mondialisation. Gestion des flux migratoires en régime néolibéral*)の他、哲学対話に関する多くの研究論文を発表している。



NATHALIE FRIEDEN

元フリースブル大学(スイス)教授。本国スイスの他、アメリカ、メキシコ、ネパール、モザンビークなど世界各国で哲学教授法を指導。授業における口頭表現の発達や教授法について研究してきた。ユネスコが毎年パリで開催する世界哲学デーのイベントでは、哲学の実践に関するシンポジウムを共催し、ワークショップを指導している。



富山大学教養教育院主催・富山大学国際機構共催
富山大学男女共同参画推進室・Wallonie-Bruxelles International 協賛
富山県教育委員会・富山市教育委員会 後援



シンポジウムプログラム

3月17日(日)

10:00 ~ 10:20 開会式

10:20 ~ 12:10 講演1・2

1. ドゥニ・ピエ「社会の中で哲学を実験した10年をふり返って—影響、目標、成果—」
2. 中岡成文「哲学対話にできること—医療と社会共創を中心に—」

12:10 ~ 13:20 ランチ・ポスター発表

13:20 ~ 14:10 講演3

3. ナタリー・フリーデン「哲学対話は教育法をどのように変えたか—言語教育の教授法を例として—」

14:20 ~ 15:00 質疑応答

15:10 ~ 16:30 ワークショップ:「哲学対話」実践と応用の可能性1
ファシリテーター:ドゥニ・ピエ、中岡成文、ナタリー・フリーデン、
松村康平

16:45 ~ 17:20 全体会議

17:20 ~ 17:30 閉会挨拶

閉会挨拶 市田路子

(富山大学 学長補佐・男女共同参画推進室長)

3月18日(月)

10:00 ~ 11:30 ワークショップ:「哲学対話」実践と応用の可能性2

ファシリテーター:ドゥニ・ピエ、中岡成文、ナタリー・フリーデン、
松村康平

11:30 ~ 12:00 全体会議

「哲学対話」がひらく可能性

教育

幼稚園で哲学対話教育を取り入れ、子どもたちと親たちが次第に変化を見せていく様子を記録した、フランスのドキュメンタリー映画「小さな子どもたち」(Ce n'est qu'un début, 2010年)は日本でも公開され、話題を呼びました。「哲学対話」は、幼児教育から初・中・高等教育、生涯教育に至るまで、人が考える力を身につけ、より広い視点でものごとを捉えることができるようになるために役立てることができます。

医療・福祉

人は病に苦しむとき、あるいはその他さまざまな理由で苦しみを抱えるとき、生きる意味を問いなおし、苦しみとほんとうの幸せの意味を求めます。「哲学対話」は、医療や福祉の現場において、患者とその家族、医療・看護者の間で思いを共有し、共に問い、あらたな視点で生を捉える機会をつくります。「哲学対話」は、ケアのための具体的手法として取り入れることができます。

企業・社会

「働く」ことは、私たちの人生、生活の大きな部分を占めています。ところが仕事をこなす忙しさの中にあると、働くことの意味、仕事が自らの人生や社会の未来にとってどんな意義をもつかについて客観的に考える機会はありません。しかし、大きな視点で仕事の意義を捉えるとき、仕事への取り組み方は、より意識的に変化していきます。「哲学対話」は、社員研修としてビジネスシーンでも取り入れられています。

